

**依存するエネルギー**

自動車や電化製品などの普及によって便利になった私たちの暮らし。その反面、エネルギー消費量は増加の一途をたどっている。現在、市内の年間エネルギー消費量は、灯油のドラム缶(200リットル)に換算すると約27万2千本で、一人当たり約9本の計算になる。依存型エネルギーの購入費用は市全体で約54億円にも上る(灯油換算)。多額の費用を

払い、海外からの石油や、石油を使って発電された電気に依存していること、便利な暮らしを維持しているというわけだ。

石油資源はいずれ枯渇する。石油価格の高騰は今後も続くことが予測されている。また、石油使用時に多く排出される二酸化炭素は、地球温暖化の一因とされている。そもそも、エネルギーを市外に依存する体制は、東日本大震災のような災害時に、深刻なエネルギー不足を引

写真/遠野風の丘にある風力発電施設。明け方の強い風を受け、風車は勢い良く回っていた

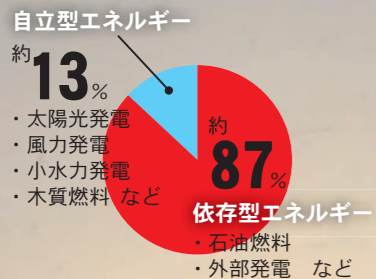


特集

# 新エネルギーの夜明け

海外からの石油や、市外で発電された電気に依存している本市のエネルギー事情。石油価格高騰や東日本大震災による福島第一原発事故、地球温暖化などの影響を受け、エネルギーを取り巻く環境は厳しさを増している。この問題に立ち向かうため、本市はビジョンと条例を作った。遠野の地に新たなエネルギーの夜明けがやってくる。

本市のエネルギー事情  
(平成25年11月現在)



き起こしかねない。私たちは、エネルギーの依存体制から脱却しなければならないのだ。

## 遠野健康福祉の里 20周年感謝祭～はたちのつどい～

1.12 日(月・成人の日)  
10時～15時

入場無料

遠野健康福祉の里20周年を記念するイベントを開催します。健康などに関する催しや、多彩なステージイベントを用意しておりますので、ぜひ、ご家族や友人と一緒にお願いします！

場所 遠野健康福祉の里 問い合わせ ☎0198-62-5111

詳細は、12月下旬に全戸配布したチラシをご覧ください！



お知らせ

遠野バイパス、カメイGS隣り  
〒028-0541 遠野市松崎町白岩19-83-1

## はやちねスポーツ

### 看板 はやちね工芸

マーク 刺繍 デザイン

アルファ株式会社 代表取締役 平野利幸  
www.tono-alpha.co.jp  
TEL 0198-62-2520

「ロゴマーク」データ作成無料キャンペーン!(1月中)

有料広告

### 目次

- 03 特集「新エネルギーの夜明け」  
新たに策定された新エネルギービジョンの概要などを紹介します
- 10 市・県民税申告説明会、市の財政状況のお知らせ
- 12 各種スポーツ・表彰、平成26年10大ニュース決定 ほか
- 14 総合カレンダー
- 16 図書館・博物館だより ほか
- 18 学びのいずみ  
とすぼ大学祭/遠野学会開催/市民スキー大会/清養園スケート場オープン! /子どもを育てる活動発表会 ほか
- 20 まちの話題  
一輪車クラブ発表会/バレエスタジオ・合唱隊発表会/シカ対策検討会 ほか
- 22 インフォメーション
- 24 みんなの広場
- 26 クローズアップ  
「遠野物語ファンタジー」
- 28 青春のトーク! ほか

2015 NO. 115

## 広報遠野 1

■市の人口(平成26年11月末現在)  
男性: 14,031人(-9)  
女性: 15,101人(±0)  
計: 29,132人(-9)  
世帯数: 10,896世帯(-4)  
※( )内は前月比

■刑法犯総件数(平成26年11月中)  
5件

■交通事故発生件数(平成26年11月中)  
発生45件 負傷者3人 死者0人

■救急車出動回数(平成26年11月中)  
108回

■火災発生件数(平成26年11月中)  
建物0件 車両0件 計0件

ご意見などは  
↓こちらまで!



各地区センターや市の公共施設に「市政なんでも相談箱」(左)を設置しています。市へのご意見・ご提言、広報へのご感想などをお寄せください。

## 平成26年11月策定 遠野市新エネルギービジョン

【概要】 東日本大震災による原発事故などを受けた国のエネルギー方針に対応。地域資源を活用した再生可能エネルギーの導入を推進するほか、省エネ、普及啓発活動にも取り組み、平成37年までに市内のエネルギー消費量に占める再生可能エネルギーの割合を約3倍に引き上げることが目標です。災害や原油価格の高騰に影響されない、安定的なエネルギー供給体制を構築するとともに、景観と環境の保全、地域経済の活性化の両立を目指します。



### 省エネ

★エネルギーを使わない体質を構築することも大切。省エネの設備を導入するなどしてエネルギー消費量を減らし、環境にも配慮。

### 創エネ

★木質バイオマス、風力、水力、太陽光など再生可能エネルギー設備の導入を進め、地域資源を生かしたエネルギーを創出。

### 普及・啓発

★市全体で創エネ・省エネに取り組むために、普及・啓発活動も展開。



10年間で再生エネの割合を約3倍に!

## ビジョン vision

## 条例 bylaw

## 平成26年12月制定 景観資源の保全と再生可能エネルギーの活用との調和に関する条例

【概要】 再生可能エネルギーの導入を推進しつつ、無秩序な開発から遠野の自然環境や歴史的景観を保全するために制定。

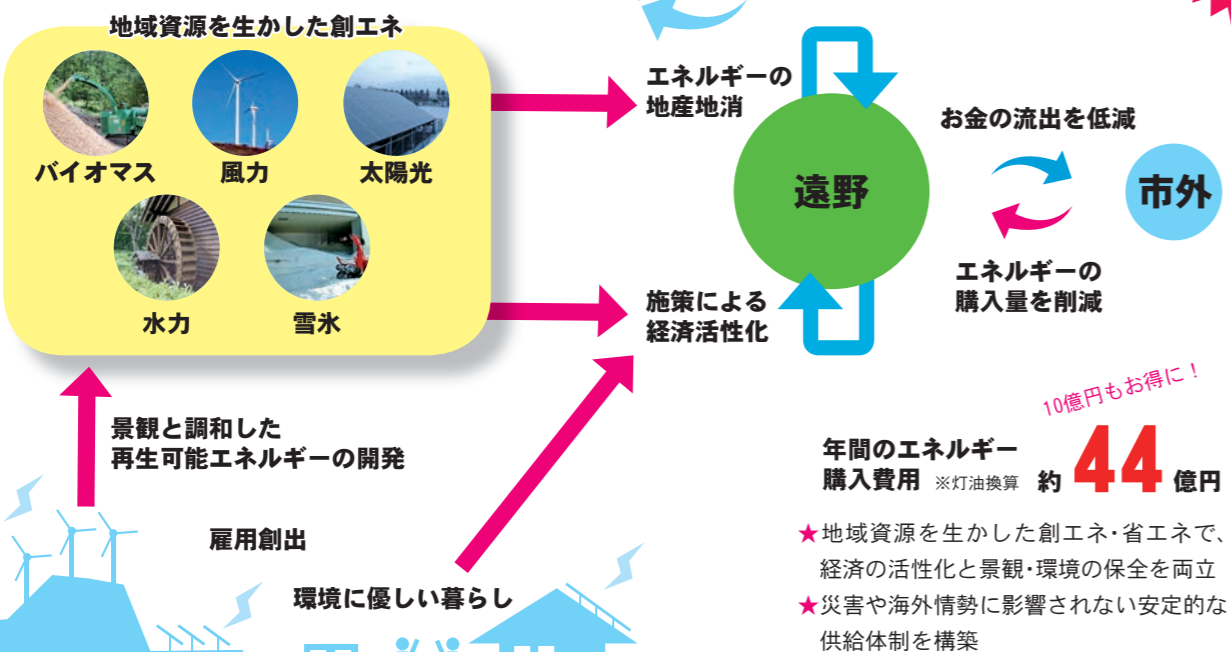
3,000平方メートル(サッカーコート約1/2)を越える事業には届け出を義務付け、必要に応じて市が指導・助言・勧告などを行うことで「日本のふるさと遠野」の景観を保全します。



ピンチをチャンスに変えるエネルギー施策とは  
自分たちのエネルギーは自分たちで創る。依存型から自立型に転換することで、遠野はもっと元気になるはずだ。本市はビジョンと条例を作り、エネルギーに関するさまざまな施策を展開していく。

# ビジョンと条例で 遠野を元気に!

## 目指す将来像は「遠野らしい好循環型社会」

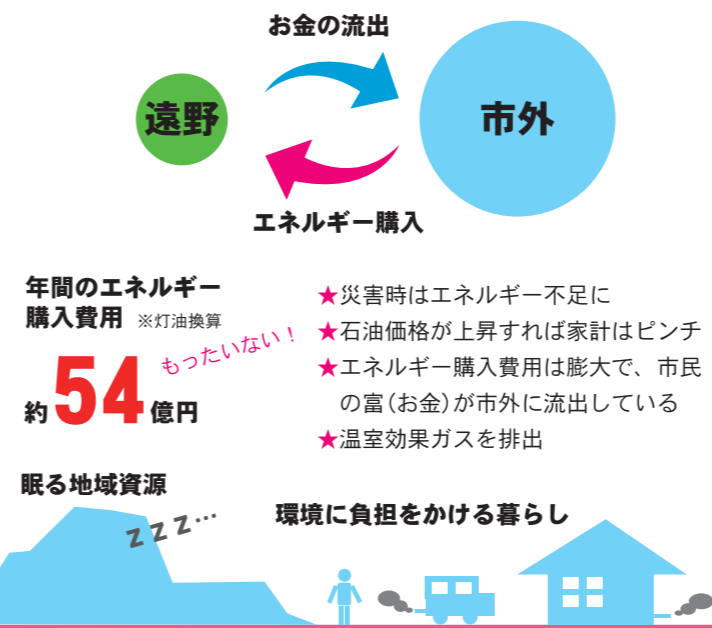


## チャンス

## ピンチ

## 本市の現状

エネルギーのほとんどを市外(石油資源)に依存



## 再生可能エネに着目

石油価格の高騰や福島第一原発事故によるエネルギー不足を受け、ますます注目を浴びている再生可能エネルギー(以下、再エネ)。再エネとは、太陽光、風力、水力、バイオマスなど再生することが可能な資源から生産されるエネルギーのこと。環境に優しく、地球温暖化防止にも役立つ次世代のエネルギー

## 好循環を生み出す エネルギービジョン

平成26年11月、市は「遠野市新エネルギービジョン」を策定。ビジョンには▽地域資源の活用によるエネルギーの創出(創エネ)▽エネルギー消費量の低減(省エネ)▽省エネ・創エネの普及・啓発の3本の柱を軸に、10年間で取り組むさまざまな施策を盛り込んでいる。地域に眠っている豊富な再エネを活用するとともに、省エネで環境に優しい暮らしを追求。平成37年までにエネルギー消費量に占める再エネ割合を30%まで向上させ、海外情勢や災害に影響を受けにくい安定したエネルギー供給体制の構築を目指す。エネルギーを購入するために外へ逃げたお金の流れを市内に向けさせ、さまざまな関連施策で雇用の拡大や経済の活性化を図り、好循環を生み出す計画だ。

## 条例で景観と調和

再エネの導入を推進する一方、懸念されるのが無秩序な開発による景観の悪化だ。本市には、豊かな自然や歴史的な景観が数多く残り、日本のふるさとの原風景が残る地として多くの観光客が訪れている。観光資源でもある景観を保全し、大切に後世に残していくため「景観資源の保全と再生可能エネルギーの活用との調和に関する条例」も同時に制定した。大規模な太陽光発電や風力発電などを計画する事業者に対して適切に指導・助言。地域の活性化にも貢献するよう協力を求める内容だ。ビジョンと条例は、エネルギー環境を取り巻くピンチを、遠野を元気にするチャンスに変える可能性がある。

次のページからは、  
エネルギービジョンの  
主要施策を紹介!

# 省エネ

で遠野を元気に！



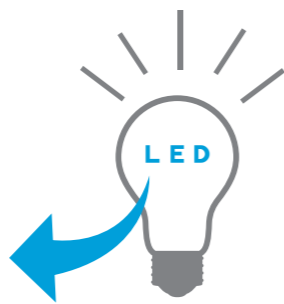
鍋倉公園からの夜景。LEDを導入すれば、さらに明るい省エネが期待できます

現在市内にある防犯灯  
約**3500**基

すべてを  
LED化すると…

年間の電気料削減額  
約**1000**万円

寿命は約10倍！  
消費電力は約1/6！



Project 3

「防犯灯・街路灯LED化プロジェクト」  
**省エネ照明のLEDで照らす。**

## 創

エネを進めても、それ以上エネルギーを消費しては意味がない。できるだけエネルギーを使わない省エネな暮らしへの転換が必要だ。まず、本市が検討しているのは防犯灯や街路灯などのLED化。LEDは、通常の白熱灯と比較し消費電力は約6分の1、寿命は10倍以上と言われている。

もし、市内にある防犯灯をすべてLED化すれば、電気料を年間1千万円も削減可能。また、既存の設備を更新する工事により、産業の活性化も期待できる。

今後、公共施設の照明設備や商店街の街灯などのLED化も検討。環境にもお財布にも優しいLEDは、遠野の未来を明るく照らしてくれるはずだ。

LEDで明るいまちに！



新エネルギー施策検討ワーキング委員  
松田 希実さん

通学路や商店街などをより明るくするLED化プロジェクトは、電気料の削減だけでなく、安心安全な暮らしや市街地のにぎわいの創出などの効果も期待できます。

ただ取り替えるのではなく、環境教育の一環として地域の子どもたちと一緒に設置作業に取り組むなどすれば、省エネの普及啓発にもつながると思います。

# 創エネ

で遠野を元気に！

「木質バイオマス流通システム構築プロジェクト」

Project 1

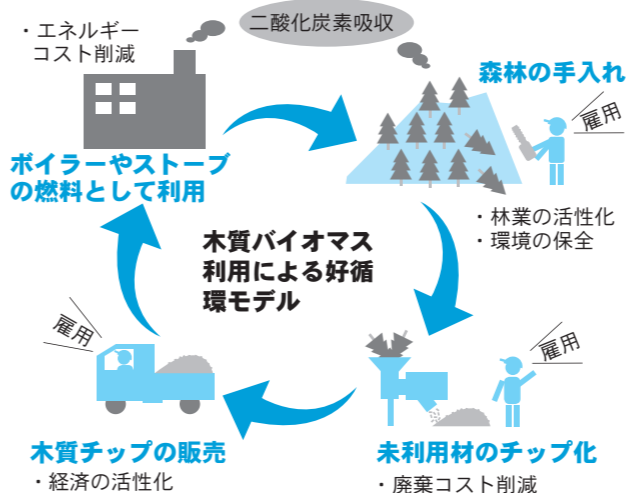
## 木質バイオマスで林業を活性化。



## 地

域に眠る資源を活用してエネルギーを創り出す「創エネ」。その主力として本市が着目しているのが「木質バイオマス」だ。森林が総面積の約8割を占める本市は古くから林業が盛んだが、最近は低価格な外国産木材に押され、林業は停滞し森林は手入れが行き届かない状況にある。そのピンチを打開するため、

本市は林野庁のモデル事業として、森林の手入れや材木加工時に出る未利用材を、燃料として再利用する事業に取り組む。市内に木材をチップ化する機械を導入するほか、木工団地内や公共施設に木質バイオマスを使用するボイラーやストーブの導入も進め、エネルギーの地産地消に挑戦。このモデル事業がきっかけで木質バイオマスの利用が進めば、林業が活性化し、山はよみがえる。元気な森林が二酸化炭素をたくさん吸収すれば、地球温暖化の防止にも貢献できる。



右／大型機械を導入し、不要な木材をチップ化上／木質チップは、燃料として専用のボイラーで使用されます



林業の新たな分野として期待！

木質バイオマス活用モデル事業は、今まで山に残っていた間伐材などを活用するチャンスです。木質チップボイラーが市内外に普及し、チップの需要が高まれば、

林業の新たな分野として発展する可能性があります。経済効果が見込まれば、チップ原料を得るための山の手入れも進み、さらに林業は活性化するでしょう。

新エネルギー施策検討ワーキング委員  
菊池 修市さん  
(遠野地方森林組合)



「次世代自動車普及推進プロジェクト」

## Project 4 二酸化炭素を出さない次世代のクルマへ。



clean!

**ガ**ソリン価格の高騰や地球温暖化の影響を受けて技術革新が進む、電気自動車や燃料電池車などの次世代自動車。二酸化炭素の排出を抑制するため環境に優しく、災害時は蓄電池として使用できるのが特徴だ。次世代自動車が、当たり前のように市内を走る時代はそう遠くない。市は、次世代自動車向けの充電設備の導入を進めるとともに、徐々に公用車を次世代自動車に更新することを検討している。次世代自動車の普及を推進することで、交通の要衝としての遠野の価値を高め、環境に配慮したまちづくりを市内外にPRする。

市内5カ所に  
急速充電器を整備  
(平成27年4月供用開始)

【設置場所】

- ・遠野風の丘
- ・道の駅みやもり
- ・産直ともちゃん(小友町)
- ・夢産直かみごう
- ・市民センター



charge!



遠野のイメージUP！  
災害に強いまちづくり！  
燃料コストの削減！

次世代自動車を  
公用車として導入

- ・走る広告塔として、エネルギー施策の普及啓発に貢献
- ・災害時は蓄電池として使用
- ・燃料費の削減

このプロジェクトは、太陽光や風力発電などの大規模事業者と、地域住民が互いに恩恵を受けられる関係を構築しようとするもの。無秩序な開発により、豊かな自然と歴史的な景観が損なわれまいようにする目的もある。市は、発電事業者に対して、適切に事業を展開するよう指導し、地域の活性化に貢献するよう協力を依頼。具体的には、エネルギービジョンによる産業基盤の整備、地域おこし活動、環境教育などへの協力を促す。事業者と地域が共に元気になるモデルを、遠野から発信していく。



地域住民

- ・景観資源の再認識
- ・発電事業への正しい理解

地域貢献活動

- ・産業基盤の整備
- ・地域おこし活動
- ・環境教育



発電事業者

- ・環境に配慮した開発を実施
- ・事業内容の透明な説明

Project 2

## 事業者と連携・協力。

「新エネルギー地域還元モデルプロジェクト」

Tie up!

# 普及啓発

で遠野を元気に!

## Project 5 「創エネ・省エネの普及啓発プロジェクト」 市民が遠野の「エコ」を考えるきっかけに。



市が進めるモデル事業をきっかけに、将来的に市民が主体となって創エネ・省エネに取り組むことができれば、遠野のエネルギー事情は大きく変わる。市は公共施設などへの再生可能エネルギー設備の導入、体験学習や環境教育の充実、事業所や家庭への省エネ設備導入による実証実験などを検討し、

民が遠野の「エコ」について考える場を積極的に提供していく予定だ。普及啓発活動を通じてエネルギービジョンが目指す遠野の未来像を共有し、地域資源の豊かさや省エネの大切さを市民一人ひとりに伝えることで、具体的な行動に結びつくはず。プロジェクトの一部を紹介する。



### 公共施設などに再生可能エネルギー設備を導入

建設を予定している市役所新庁舎や、たかむろ水光園に再生可能エネルギーを導入し、視察や体験学習の場とします。また、地域の集会所などに薪ストーブや廃棄木材を利用するストーブなどの導入を検討し、市民が身近に再生可能エネルギーの魅力を感じることができるようにします。

### 公共施設に薪ストーブなどを導入

薪ストーブは、柔らかな温もりが魅力。市民が多く集う場所への導入を検討し、森林が豊かな遠野ならではの再生可能エネルギーとして体感してもらいます。災害時は、石油や電気に頼らない暖房・調理器具として活用することも視野に入れています。

### 省エネ設備の実証実験

省エネ設備の導入による費用削減効果を検証。そのデータを基に、省エネ設備の普及推進を検討します。また、創エネ・省エネに貢献している企業や団体を表彰する制度の創設も検討しています。



### たかむろ水光園を環境教育の場へ



同園は現在、太陽熱利用設備(写真上)と水道事業の設備を利用した小水力発電設備(下)などがあります。今後は、入浴施設のための木質チップボイラーの導入も予定しています。さまざまな再生可能エネルギーを学ぶことができる施設として整備していきます。

### 環境教育で人材育成

発電事業者や教育機関と連携し、環境教育に関する取り組みや、イベントなどへの創エネ・省エネ設備の展示会などを企画していく予定です。エコに関する正しい知識を持った、遠野の未来を担う人材の育成を目指します。



楽しみながらエコを考えよう!

地域の森林資源の豊かさを知ることができる薪ストーブの導入は、私も賛成です。薪割りや森林の手入れといった体験学習とセットにすることで、人と里山との関わり方も学ぶことができます。楽しみながら薪を割り、汗を流してエネルギーを得る体験をして初めて、エコな暮らしを実践することができるのではないのでしょうか。



新エネルギー施策検討ワーキング委員 千葉和さん(遠野エコネット)

## 「再生可能エネルギー」導入施策を一挙紹介! 遠野には、豊富なエネルギー源が眠っている。今後、地域資源を生かした再生可能エネルギーの可能性を探っていく。

### ① バイオガス

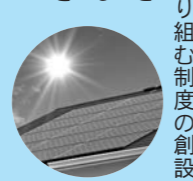
畜産業が盛んな遠野。家畜から排泄される糞尿も実はエネルギー源です。糞尿が分解される過程で生成されるメタンガスを使って発電できるほか、発電時に出る熱も利用可能。農家と連携しながら、バイオガス発電設備の可能性を探ります。



発電や熱利用  
糞尿から生成されるメタンガスを使用

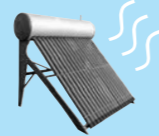
### ② 太陽光

普及が進んでいる太陽光発電。大規模で行うメガソーラー事業の適正な導入や、個人住宅への設備導入、市民が共同で発電に取り組む制度の創設などを検討していきます。



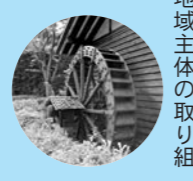
### ③ 太陽熱

太陽の光を吸収し熱を生かせる太陽熱利用。太陽熱利用システムの導入を検討し、空調や給湯の熱源として利用します。市民への普及啓発活動への利用も視野に入れます。



### ④ 小水力

河川や水道など、水の流れさえあれば導入できる小水力発電は、安定した発電が期待でき、遠野のイメージにも合うのが魅力。地域主体の取り組みへの支援を検討します。



### ⑤ 温度差

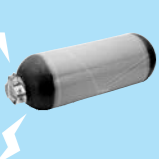
少ないエネルギーで、空気中や地中から熱をかき集めて大きな熱エネルギーにする「ヒートポンプ」技術。この技術を活用した冷暖房設備を、住宅や公共施設などに導入することで、遠野の気候を生かした省エネが期待できます。



寒暖差を利用した冷・暖房設備  
ヒートポンプ技術を活用  
地中熱を利用した歩道の融雪設備

### ⑥ 水素燃料

水素と酸素を化学反応させて発電する水素燃料は、新たなクリーンエネルギーとして注目されています。実用化に向けた研究も盛んで、その取り組みを注視していきます。



### ⑦ 風力

遠野は風が強い地域であり、風力発電の立地条件は良好。しかし、大規模な風力発電事業は景観への影響が大きいため、事業者に対して適切に導入するよう促します。



### ⑧ 雪氷

冬期間に降る雪は、貯蔵庫などで保管すれば、夏場の冷房や農作物の栽培・保管などに利用することができ、今後、雪氷エネルギー活用の可能性を探っていきます。



## 好循環モデルを遠野から発信!

便利で快適な暮らしを手に入れた代わりに、大量のエネルギーを消費するようになった私たち。石油価格の高騰や福島第一原発の事故、地球温暖化などが、その暮らしに警鐘を鳴らしている。私たちは、今後のエネルギーについて真剣に考える必要がある。このまま石油や原子力に頼り続け、後世にそのつけを残すわけにはいかない。

エネルギービジョンは、遠野の未来の姿でもある。再生可能エネルギーはまだまだ発展途上だが、石油や原子力に代わる新エネルギーとして今後の主流になるはずだ。眠っている地域資源を活用し、景観を守りながら環境に優しいまちづくりを進めることで、地域がますます元気になる。そんな、好循環のモデルを遠野から発信していこう。市民が丸となって取り組めば、エネルギーの新時代がやってくる。